

医学研究センター

知財戦略研究推進部門

岡崎 康司
(部門長)

知財戦略研究推進部門は、「知的財産管理運用部門」と「産学連携部門」を統合し平成19年12月に発足しました。当部門は平成18年度から特許庁の支援事業(「大学知的財産アドバイザー派遣事業」)を受けてスタートしました。3年間の支援期間によって、当初想定していた以上に良い方向で着地することができ、平成21年度より自立した組織としてスタートを切りました。

埼玉県の補助事業で平成22年度から24年度まで産学官コーディネーターおよび補助員を採用しました。更に25年度からは産学官連携アドバイザーを採用し、産学官連携の新たな活動を開始することができました。

平成22年度から平成26年度まで埼玉県が主催する「次世代産業カレッジ」事業に参画し、本学の先生によるセミナーを通じて企業や他大学とのネットワークを形成しながら、経営マインドを持つ中小企業の技術者を育成することと、本学のシーズ・ニーズを紹介して企業との連携を強化してきました。

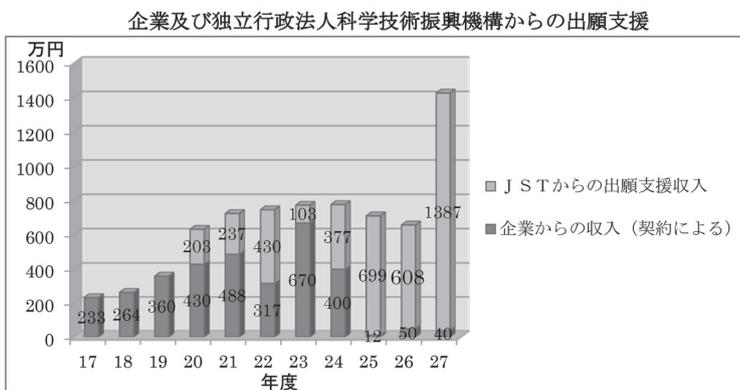
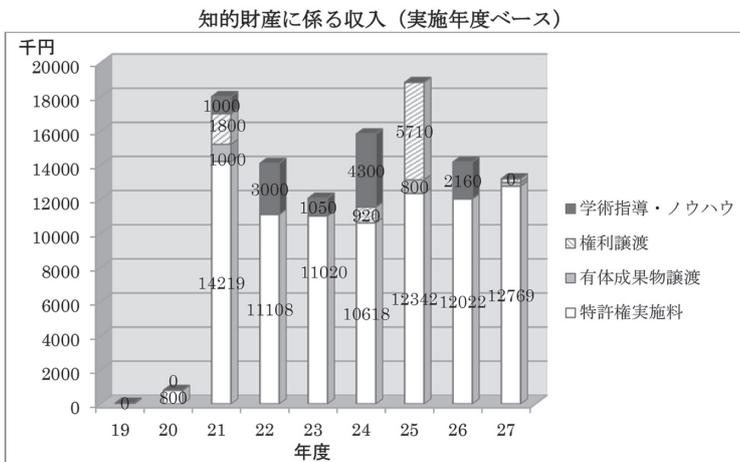
また、平成27年度から埼玉県先端産業創造プロジェクトの医療イノベーション埼玉ネットワークに参画し、医療に関わる県内大学、企業、金融機関との連携を強化しました。

現在(平成28年5月1日)までに45件の特許が成立し、保険適用となった臨床検査向け特許(「特許第4216266号」)技術が現場において活用されるに至り、産学官連携による人類の健康や福祉への貢献が目に見える形となって参りました。そのランニングロイヤリティは、次の発明の創出に向けて研究者及び法人に還元され、まさに知的創造サイクルが回り始めたものと実感しています。

平成27年度の知的財産に係る収入(実施年度ベース)は、特許を受ける権利及び有体成果物譲渡で合わせて432万円、特許権実施料収入で1,276万円、総額は1,320万円となりました。なお、特許の出願費用については、企業に支援して頂けるよう交渉し、また、国立研究開発法人科学技術振興機構(以下、JSTと略す)へ支援申請して出願費用の1,387万円分の支援を受けるなど、出願費用の負担を軽減する努力をしています。

当部門の活動の成果として、文部科学省が平成27年12月25日に公表した平成26年度の大学等における産学連携等実施状況調査の結果において、『特許権実施料収入』で医学部を持つ全国私立29大学の中で第6位、全国全ての大学の中では第30位にランキングされました。

(http://www.mext.go.jp/component/a_menu/science/detail/_icsFiles/afieldfile/2015/12/25/1365509_2.pdf)



※企業からの収入：共同出願契約等において、本学が負担すべき費用等を企業に負担していただいた場合の費用を収入として換算した。

No	機関名	千円
1	慶應義塾大学	137,474
2	日本大学	82,001
3	同志社大学	28,546
4	関西大学	12,462
5	関東学院大学	12,180
6	埼玉医科大学	12,021

知財戦略研究推進部門の主たる役割は、本学の英知と時代のニーズとの橋渡しを行うことによって社会に貢献していくためのサポートを行なうこととあります。以下に、平成27年度における様々な成果や活動状況の一端についてご紹介させていただきます。

■秘密情報管理規程の整備

研究活動の成果にかかる秘密情報を適正に管理するため、「埼玉医科大学の各基本学科の研究成果に係る秘密情報管理規程」及び「埼玉医科大学の共同研究契約等における秘密情報管理規程」を整備いたしました(平成28年3月26日施行)。

■特許査定

研究者との面談や弁理士との協議を積極的に行い、12件の特許が成立しました。

- ① 発明の名称「加齢黄班変性症の発症リスクの予測方法」(米国)
出願日：平成25年3月14日
登録日：平成27年4月3日
発明者：井上聡, 堀江公仁子, 森圭介, 米谷新, 神田将和, 岡崎康司
- ② 発明の名称「骨分化阻害剤およびその製造方法」(日本)
出願日：平成22年11月15日
登録日：平成27年4月10日
発明者：片桐岳信
- ③ 発明の名称「生体組織牽引用高分子成形体, それを用いた医療用牽引部材及び医療用牽引具」(日本)
出願日：平成23年4月6日
登録日：平成27年7月3日
発明者：西村誠, 喜多宏人
- ④ 発明の名称「子宮癌, 乳癌, 及び膀胱癌の予防乃至治療に好適な二本鎖核酸分子, 癌細胞増殖抑制剤, 並びに医薬」(欧州)
出願日：平成20年6月20日
登録日：平成27年9月9日
発明者：井上聡, 池田和博
- ⑤ 発明の名称「鳥インフルエンザワクチン」(中国)
出願日：平成21年11月27日
登録日：平成27年9月9日
発明者：松井政則
- ⑥ 発明の名称「糖代謝, 脂質代謝, 肥満, 及び寿命の少なくともいずれかを制御する作用を有する物質のインビトロでのスクリーニング方法」(日本)
出願日：平成24年6月18日
登録日：平成27年10月16日
発明者：井上聡, 池田和博
- ⑦ 発明の名称「鳥インフルエンザワクチン」(日本)
出願日：平成21年11月27日
登録日：平成27年1月9日
発明者：松井政則
- ⑧ 発明の名称「人工多能性幹細胞の製造方法」(日本)
出願日：平成22年2月16日
登録日：平成27年11月27日
発明者：菱田友昭, 奥田晶彦, 加藤英政
- ⑨ 発明の名称「母乳または飲食品がアトピー性皮膚炎の発症を誘導する危険性を評価する方法, およびアトピー性皮膚炎の発症を誘導する危険性が減少された母乳または飲食品」(日本)
出願日：平成22年10月26日
登録日：平成27年12月25日
発明者：松下祥, 東丈裕
- ⑩ 発明の名称「SARSコロナウイルスの細胞傷害性T細胞エビトープペプチド及びその用途」(日本)
出願日：平成21年11月27日
登録日：平成28年1月13日
発明者：松井政則

⑪ 発明の名称「計測装置及び計測方法」(日本)

出願日：平成24年2月27日

登録日：平成28年3月18日

発明者：戸井田昌宏

⑫ 発明の名称「前立腺癌及び膀胱癌の予防乃至治療法に好適な二本鎖核酸分子、腫瘍形成抑制剤、並びに医薬」(米国)

出願日：平成26年7月7日

登録日：平成28年3月15日

発明者：井上聡、池田和博

■海外出願支援

今後は、知財戦略研究推進部門として、本学で生まれる発明を日本のみならず外国においても積極的に特許として権利化していきたいと考えています。

しかし、外国で権利化するためには、多額の資金が必要になるため、JSTの「重要知財集約活用制度知財FS型(外国特許出願支援)」に積極的に申請し、外国での権利化を図っていく努力を続けています。

昨年に引き続き本年もJST支援制度に7件申請し、2件採択(審議中1件、不採択4件)となり海外出願に関わる費用を支援して頂きました。

平成27年度にJSTから受けた出願支援総額は、1,387万円でした。

平成27年度産学官連携活動実績

■さいしんビジネスフェア2015

埼玉県信用金庫が主催した県内企業との商談会に参加し、企業との産学官連携活動を行いました。

開催日：平成27年6月10日(水)10:00～18:00

開催場所：さいたまスーパーアリーナ 展示ホール

出展規模：250団体・企業

来場者数：14,955人

■医療機器研修会

本学と埼玉県産業振興公社とで共催して「医療機器研修会」を開催しました。

本学と埼玉県産業振興公社は、医療機器分野に進出しようとしている県内の中小企業を対象に、企業の人達が医療機器を見学する機会はあるものの、実際に触り内部を見る事はほとんどできない現状から、講義と実習をまじえて実施しました。

セミナー終了後の参加企業との懇談会では、「非常に参考になった。」「是非今後も続けて欲しい。」との強い要望がありました。

開催日：平成27年11月28日(土)9:00～16:00

開催場所：埼玉医科大学 保健医療学部 医用生体工学実習室

参加企業：18社、27名

講演・実習テーマ／講師：

1. 代謝機能代行機器(人工透析器など)／保健医療学部 川邊助教・三輪助教・丸山助教
2. 呼吸機能代行機器(人工呼吸器など)／保健医療学部 三輪助教・川邊助教・丸山助教
3. 循環機能代行機器(人工心肺装置など)／保健医療学部 奥村講師・丸山助教
4. 診断／治療機器(ペースメーカー、除細動器、電気メス、輸液ポンプ、患者モニターなど)／奥村講師・三輪助教・川邊助教・丸山助教

■彩の国ビジネスアリーナ2016へ出展

本展示会は、様々な分野の企業・団体が参加する、国内最大級の展示商談会であり、今回は埼玉県の補助金を獲得しているテーマを埼玉県産業振興公社と協力して下記の4演題を試作機とパネル展示で紹介しました。

開催日：平成28年1月27、28日

開催場所：さいたまスーパーアリーナ 展示ホール

出展小間数：750

来場者数：15,000人

- ① 3Dスキャナを搭載した人工膝関節手術ナビゲーションの製品化(保健医療学部、若山俊隆)
- ② iPS細胞分化誘導培養装置の開発と製品化(ゲノム医学研究センター、加藤英政)
- ③ 心筋梗塞リスク検査装置の開発(大学病院、井上郁夫)
- ④ 熱中症・脱水症予防対策用検査機器の開発(大学病院、依田哲也)

■先進医療施設見学会

埼玉県とさいたま市が共同で企業や大学、研究機関で構成する産学医のプラットフォーム「医療イノベーション埼玉ネットワーク」に本学も参画しています。その活動の一環として「先進医療施設見学会」を実施していますが、今回は本学の総合医療センターで開催しました。

活発な質疑応答があり、各部門から紹介があったマッチング可能なテーマを今後企業と個別に面談し、進展させていく事にしました。

開催日：平成28年3月7日(月) 13:30～16:00

開催場所：埼玉医科大学 総合医療センター 大講堂

参加者：40名

1 挨拶

埼玉県産業振興公社 新産業振興部長 関根厚

埼玉医科大学総合医療センター 病院長 堤晴彦

2 センター概要説明

埼玉医科大学総合医療センター 副院長 木崎昌弘

3 講演

埼玉医科大学の研究ニーズ紹介

① MEサービス部門：臨床工学技士の業務と現場で困っている事

演者：谷口淳 臨床工学技士

② 中央放射線部門：放射線検査の効率化を目指して

演者：大根田純 診療放射線技師

③ 看護部門：看護部門が要望したい医療機器や機材

演者：鈴木美弥子 中央手術部看護師長

④ 医師部門：その他

4 施設見学

病院施設・救命救急新棟等の施設見学

高度救命救急センターセンター長 杉山聡

埼玉医科大学総合医療センター 副院長 奥水健治

本学の皆様には知財戦略研究推進部門の活動内容をご理解頂き、実際の発明案件や発明に関する事及び産学連携に関しての質問等がありましたら、気軽に声をかけて頂きたいと考えています。知財戦略研究推進部門は、日高キャンパスのゲノム医学研究センターの6Fにありますが、ご相談があればこちらから皆様のもとへ伺わせて頂きます。本年も知財戦略研究推進部門を何卒宜しくお願い致します。